

月次決算を経営に活かす

Q. 月次決算をどのように経営に活かすか？

要旨 月次決算と年次決算は目的が異なるため、求められる精度と早さが異なります。

月次決算を今すぐにやろうと思っても、会社によっては月次決算ができるだけの仕組みができていないこともあり、そのような場合、仕組みづくりから検討しなければなりません。

解説

1. 月次決算の必要性

年次決算が株主等への報告、税務申告といった目的であるのに対して、月次決算はタイムリーに業績や財務内容を把握することで、経営判断に役立てることが主な目的といえます。

できるだけ早く月次決算を行い、資料（試算表）を作成することによって、迅速な経営判断に基づく設備投資の実施の是非、金融機関への資金繰りの相談など将来の経営をスムーズに行うことができるようになります。そして、金融機関自身も顧客の状況をタイムリーに把握することで迅速かつ臨機応変な相談対応や提案を行うことができるようになります。

しょう。月次決算を行う場合には、社内の仕組みづくりが重要になります。現在の業務を見直し、社内の仕組みにシステムを活用することで業務をスムーズに進めることができる場合もあります。システムは、会計、販売管理、給与計算などが一般的で、それぞれを活用し、業務を効率化、画一化することで月次決算が可能になります。

さらに、月次決算には取引先の協力もなくてはなりません。取引先からの請求書が遅れば月次決算をまとめることができないため、できるだけ早く請求書の発行をお願いする必要があります。相手に無理強いしないでできる範囲の協力を要請すべきでしょう。

2. 月次決算ができる仕組みをつくる

①できない原因を追究する

月次決算ができていない会社の多くは仕組みができていないことが考えられます。ただ、月次決算を行おうとしてできない場合には、(イ)物理的にできないのか、(ロ)やる気がないのか見極める必要があります。

②システムを活用する

会社が月次決算を行おうと思っても、人手が不足している場合や集計に時間がかかる場合など、物理的に難しい場合もあるで

月次決算で経営状況を定期的に確認する

<ご提案のポイント>

- ・ 月次決算を行うことで、経営状況を月ごとに把握することができます。
- ・ 経営状況が変化した場合に、迅速に経営判断を行うことができます。

1. 月次決算の目的

一般的に決算といえば、年次決算を意味します。年次決算は、その期の会社の状況を株主等へ報告するために行うもので、貸借対照表や損益計算書を含む決算書類を作成します。そして、作成された年次決算書は税務申告にも活用されます。

他方、月次決算とは現在の経営状況の把握を目的として行います。経営状況の把握を目的とするため、月次決算での資料（試算表）の作成は年次決算よりも簡便的に作成します。

〔月次決算と年次決算の違い〕

	月次決算	年次決算
目的	経営判断・途中経過報告	株主への報告、税務申告・確定決算
期限	できるだけ早く	法律の期限（税務申告は原則2カ月）までに
精度	経営判断ができればOK！	正確に（真正な決算により外部への信頼）

2. 月次決算の作成方法

月次決算の資料は内部的な経営判断のために行うものであり、外部に提供する年次決算書とは目的が異なり、作成方法も異なります。率直に言えば、現在の経営状況を把握できるだけの正確性は必要になりますが、外部報告ほどの細かい精査は必要ありません。

3. 月次決算を用いての自社の状況を定期的に分析する

会社は日々活動し変化しています。1年ごとの決算において財務分析を行い、状況を把握しては、対応が後手に回る場合があります。そのため、月ベースで財務分析を行い経営に活かしていくことができるように、月次決算を行うことが重要になってきます。定期的な分析を経営に活かすことができるようになれば、機会を逃すことなく設備投資や問題点の解決を機動的に行うことが可能になります。